

NPO 法人 宮城県森林インストラクター協会 会報 55 号



Miyagi Prefecture Forest Instructors Association

m i f i n e w s



55



2015 年 8 月

ボランティア活動と事故

会長 13期 太田 雅夫

ボランティア活動と事故はあつてはならないのですがありうることで

す。協会の活動はシーズンに入って盛んになっています。去る6月17日刈払作業中に怪我が発生しました。植樹地の刈払作業をしていた会員の刈払機の回転によって、地面にあった10cm程度のワイヤー片が飛び、5mほど離れた会員の左手の甲に突き刺さり、貫通したのです。すぐさま病院に駆け込み、切開はせず抜き取り、治療を施しました。その後順調に回復に向かっていますが、まかり間違えば生命の危険もありました。協会での活動はこのように危険が伴う場合があります。ボランティア保険に入っており対応できますが、本人の傷は残ります。このように活動は他にもたくさん危険と隣り合っています。作業事故のほかにも危険な害虫、倒木、落枝による傷害など、また夏は熱中症の心配もあります。しかし協会の活動が続けられているのは、活動に対する理解があり、やりがいや達成感があることが継続の力です。こうして中でいかに安全に

対する備えをし、また事故が起こった場合の対応をいかにうまくすること大事になります。その大事な要素は大きく三点ほどあります。

1. けが人や傷病者の適切な対応と処置
2. 事故処理の迅速な対応と連絡の徹底
3. 事故の防止のための安全対策の確認

「けが人や傷病者の適切な対応と処置」については状況を判断して、二次災害を防ぎつつ、周りの人を呼び協力を得ながら、適切な処置を決定します。応急処置ですむのか、病院に搬送できるか、救急車を呼ぶのか判断します。

「事故処理の迅速な対応と連絡の徹底」については関係者や責任者に迅速に連絡を入れることです、場合によって警察の取調べが入ります。この場合いつ、どこで何がどうしたのか、わかった事実だけを伝えます。推測、思い込みを入れてはいけません。事故の解決への収集が複雑になる場合があります。

「事故の防止のための安全対策の確認」については多くの人の目で確認して、日頃から注意を怠らないことで

す。協会には安全対策部があり安全講習会や安全パトロールも行われています。それでも突然、自然災害は襲いかかってきて活動の事故が起きることが考えられます。土砂崩れ、地震、津波、大雨、噴火、落雷、竜巻などたくさんあります。怖いから部屋に入って、近づかないのではなく、恐れながら注意を怠らないことが大事と思います。ボランティア活動の災害のリスクは基本的に自主責任が伴います。このことを十分に理解しておくことが大切です。協会としても最大限の注意を払い、対応策を講じていきます。さらに安全対策は多くの会員の目で見ることが安全確認の第一歩です。

目次

- P. 1 巻頭言
- P. 2 企画部
- P. 3 海岸林再生事業部
- P. 4 研修部/環境・森林事業部
- P. 5-6 活動報告
- P. 7 紙上講座
- P. 8 安全のページ/川島教授講演会
- P. 9 会員の広場
- P. 10 リレー式/インフォメーション/
編集後記
- P. 11 施設だより

表紙のことは：10期 高垣 至

猛暑の青空を背にして、むしろ暑さを楽しむかのような「ノウゼンカズラ」。よく目にするのは平安時代に渡来したと言われる中国原産種で、他物に絡むため漢詩の世界では愛の象徴とされる。花や樹皮は漢方薬で利尿などに使われるという。写真は中国原産種よりもやや赤色が濃く細身で、大正末期に渡来したアメリカ中南部原産のアメリカノウゼンカズラ。花の形からトランペットフラワーなどの呼称もあるらしい。

きかくがいろん
～夏もんく
いろいろ～



1期 木村 健太郎

◇プロジェクト◇

海岸防災林については、前号で結論づけたつもりです。もちろん、我が関わった植樹苗については、追跡調査を続けていかなければならないので、巨理・岩沼・東松島の植樹地には頻繁に通うこととなります。

常磐道を南下すると、用も無くなぜか立ち寄ってしまう岩沼市相の釜地区の「千年希望の丘」ですが、先日、すごい光景を目にしました。

「緑のバトン運動」記念植樹が岩沼市の復興を願って2015年7月5日と書かれた新しい看板が立っていて、苗木を育てた41校の名前と植樹を行った学校が記されています。苗木には、ラミネート処理をした子どもたちのメッセージなどが掛かっています。樹種は、ヤマハンノキ・ヤブツバキ・ホオノキ・クリ等20種類を超える広葉樹たちで、大きさは50cmくらいから、大きいものは背丈ほど。問題は植樹方法で、フワッと盛土した感じの柔らかい土にフワッと植えられたらしく、植樹から十



日ほどしか経っていないにも拘わらず、ほとんどの落葉樹は既に葉が茶色く枯れていて、苗木ごと風でなぎ倒されたものも目立ちます。これから梅雨明けの猛暑に突入することを考えると、「生き残る苗木があるのかなあ」と悲しくなってきました。

植樹方法以前に、大きな広葉樹を真夏に植樹する時点で問題ですが、全国の子どもたちが思いを込めて育てた苗木がこんな扱いを受けて良いものなのか、憤りを感じました。

プロジェクトによって生み出されたたくさんさんの広葉樹が全国に溢れて行き場を失っているのに、海岸にただ苗木たちの「墓場」を作っているだけではないのか、本気で考えなければならぬ問題だと思えます。むしろ、内陸の伐採跡の植栽放棄地や山砂を取った跡地に植樹するわけにはいかないのでしょうか。宮城県にすべて押し付けるのではなく、むしろプロジェクトを考案し推進した方たちが苗木たちの「嫁ぎ先」まで面倒を見る責任があるのだと思います。しかし、関係者を追

求すると、「でも子どもたちには良い経験だったから」と既に過去の事業にされてしまっていました。

◇ESDと生きる力◇

ESDについては、相変わらず東京まで行って激論を交わしています。宮城県内では誰とも意気投合して気分良くESDを進めることができず、東京に行つて大学の先生や企業人と話をする、どうしても学習指導要領の中の「生きる力」の解釈でもめてしまっています。

環境教育防災林事業を展開してきた我々の解釈では、「生きる力」「自然の活用術」であったり、「里山生活の智慧」であったり、「地域協力」であったりするわけで、我々が自然体験などで子どもたちを相手にする際、常に心がけていることです。

しかし、別のとらえ方をすると、もちろん多くて、「生きる力」とは、「子どもの頃からグローバルな教育を施し、自己主張する力とディベート力を鍛えて世界と戦える人材を育てること」だと強調されると、こちらには「は？」となつてしまつて、あとは相手の専門用語だらけの熱弁を聞いていることしかできません。

日本人が中国人や韓国人やアメリカ人に比べてディベート力が劣っているのは明らかです。しかし、むしろ人づきあいの中で物事ははっきり

言わないのが日本的な美学でもあるはずで、私はむしろ「おもてなし」の心や「わびさび」の自然観が溢れる日本の里山暮らしの風景を、世界中の人々に伝えていくほうがよっぽど「生きる力」なのではないか思えます。少なくとも自分の子どもには、「戦う力」よりも「思いやる力」を持つてほしいです。

◇生物多様性 考◇

次号に続くテーマとして、最も難しい「生物多様性」に少しだけ触れておきます。CSRを志す数社から、「当社の社会貢献活動として生物多様性の保全に取り組みたいので、お知恵を・・・」と打診が来ています。理由を求めると、「最も優先して取り組むべき環境問題は生物多様性・・・」とのことですが、生物多様性の保全が一番の環境問題だと考えている県民がどれくらいいるのでしょうか。放射線や最終処分場問題、海岸林再生、里山荒廃、ナラ枯れやマツ枯れ、暑すぎる夏問題等、県内には優先すべき環境問題が溢れているような。

とりあえず「御社の全社員が虫を好きになつてくれたらそれでいいでしょう」と答えるようにしています。山林を潰して大工場をつくり、虫が寄りない木ばかり植えて「我が社は生物多様性に・・・」はどうなのか、これからじっくり考えていきます。

海岸林再生事業部が発足しました

14期 高梨 真一

海岸林と言われると、砂浜海岸にある飛砂防備林や防風林、潮害防備林等の森林をイメージしますが、山形大学農学部の中島先生が、2004年の海岸林学会誌に海岸林にまつわる話という題で読物風の文章を書いており、その中に「海岸には海岸林がない」といつ記述がありました。「むむむ？」と思いながら読んでみると、海岸とは何処を指すかという内容でした。海岸法では、最高高潮面と最低低潮面との間を海岸と規定している」と書いてありましたので、海岸法を読んでみました。ところが、海岸法には、海岸保全区域の指定（陸地側は満潮時の水際線から、水面においては干潮時の水際線からそれぞれ50m以内を指定）の記述はありませんが、海岸の定義はありませんでした。海岸の定義を書いた公的な文書はないか調べてみたところ、国土地理院の海岸調査要綱と環境庁（現環境省）の海岸調査の文書に海岸の定義がありました。両方とも同じ内容で「海岸（汀線）とは、低潮海岸線と通常大波の限界線との間の区域をいう」とあります。つまり、潮が引いた時の線と大きな波が来たときの線の間となります。一般には「海水

の影響を受ける範囲」が海岸と思えば良いと思います。従って、中島先生が言うように、砂浜海岸（一般に浜と呼ばれる）の海岸には海岸林はないのです。

さて、会員の皆様の中には、海岸林再生植樹に携わっている方がいると思いますが、協会としては国土緑化推進機構の海岸林再生のワークショップ等には協力しておりましたが、植樹活動への参加は、2012年6月の宮城県主催の「海岸林再生キックオフ植樹」以外はなかったと思います。

平成27年5月23日の総会で、海岸林再生事業部が発足し、県の「みやぎ海岸林再生みんなの森林づくり活動」事業と国土緑化推進機構と連携して海岸林再生の普及イベントやワークショップの企画／運営等に取り組むことになりました。実際には、総会前に協会として次の2件の植樹活動に参加しました。

(1) 3月21日：巨理町吉田浜で行われた宮城県環境生活部自然保護課主催の「海岸防災林再生・きずな苗木植樹」。この植樹祭の準備と植樹に協会が協力し、当日は鳥取県関係者、宮城県関係者、巨理町関係者、ボランティア団体等約100名が参加

し、鳥取県から里帰りした落葉広葉樹（コナラ、クリ、ケヤキ）90本、新潟県から復興支援として贈呈された「にいがた千年松（抵抗性アカマツ／コンテナ苗）」100本、長崎県の個人から寄贈されたツバキ100本を植樹しました。

(2) 5月8日：岩沼市寺島で行われたDCMホームマック株式会社との植樹。この植樹は協会が支援し、社員20名、幼稚園児112名、協会から26名が参加し、羽衣マツ（クロマツはだか苗）271本、抵抗性クロマツ／コンテナ苗500本を植樹しました。海岸林再生事業部発足後は、岩沼市寺島での株式会社シャパンクリーンの植樹を支援しました。5月31日に社員と家族59名、協会から17名が参加し、羽衣マツ（クロマツはだか苗）763本を植樹しました。

7月15日に、それぞれの植樹地の生育調査をしました。巨理町植樹地の「にいがた千年松」は、順調に生育していました。落葉広葉樹は生育が悪く、ツバキは枯死株が目立ちました。乾燥が続いたこともありましたが、海岸での広葉樹植樹の難しさを痛感しました。岩沼市のDCMホームマック植樹地の羽衣マツは約10%が枯死しましたが、抵抗性クロマツは、枯死株はありませんでした。シャパンクリーン植樹地の羽衣マツも約10%が枯死しました。羽衣マツ枯死の原因は明確ではありません

せんが、植樹時期や植樹方法も枯死の一因と思われます。羽衣マツは、はだか苗なので、参加者には植樹方法を丁寧に指導しましたが、実演通りには植樹されませんでした。また、協会員も一緒に植樹しましたので、参加者全員が目が届きませんでした。植樹は海岸林再生のスタートです。今後は、スタートの植樹でつまずかないよう、丁寧な植樹を心掛けます。今年は、これ以上の海岸林植樹の予定はありませんが、海岸林再生事業部では、平成28年春の海岸林植樹に向けて、企業との連携を模索していきます。海岸林再生に関する活動予定は、事務局より発信されますので、会員の皆様のご参加・ご協力をお願い申し上げます。



抵抗性クロマツ/コンテナ苗を植樹
(7月24日：みどりの少年団大会)

研修部からのお知らせ

研修部 15期 萱場 淳治

相馬研修部長の後任となります萱場です。紙面をお借りして、ご挨拶申し上げます。

研修部は大きく3つの事業があります。

1 宮城県森林インストラクター養成講座

2 みやぎ自然環境サポーター養成講座

3 会員向け研修

研修部として、平成27年度通常総会資料で記載されている事業方針の達成が求められています。これらの事業を研修部だけで運営はできません。会員の皆様のご協力により各事業の運営が可能になります。昨年度同様に皆様のご協力をお願い致します。宮城県森林インストラクター養成講座では、約10数名の会員の皆様に講師としてご協力戴いております。引き続き、宜しく願います。

さて、「会員向け研修」ですが、9月からの会員向け研修は、「いまさら聞けない・初心に帰る研修会シリーズ」と「マツに関する研修会シリーズ」を予定しています。

「いまさら聞けない・初心に帰る研修会」は15期生及び16期生の皆さんに是非参加をお願いします。「マツに関する研修会」は、最近

四季の森刈払い作業奮戦記

環境・森林事業部 3期 原 恒夫

多くなってきた「海岸林再生プロジェクト」の植栽活動」に活かせばとの考えからです。私が最初に「海岸林再生プロジェクトの植栽活動」に参加したのは、昨年名取市で行われた活動です。重機で踏み固められた箇所、チップが土中に埋まって過湿状態の箇所、そして理想的な砂土の場所、様々な植栽地での植栽活動でした。その活動を通じて、自分で植栽したマツを管理し、いつの日か、間伐ができればという思いが募り、マツについて講習を受けて来ました。実務的な経験はありませんが、そこで得たマツに関する情報を皆さんに紹介したいと思います。

研修内容は「マツの分類などの概要」、抵抗性クロマツの植栽が主流になって来ましたが、「マツ枯れとマツの害虫」、「マツの植栽方法」等を考えています。整備活動終了後でお疲れのところ大変ですが、是非ご参加をお願いします。



植樹されたマツ

県民の森の維持管理作業は広大な面積を対象としているため、通常の職員作業によるものと外部発注によるものがあります。今回の四季の森刈払い作業は従来草木が繁茂する夏場にかけて外部業者に発注していましたが今年例年の業者が多忙のため実施が9月以降になるとのことでした。時期を逸した刈払いでは意味がなく県民の森および当協会として内製化の試みとなりました。

なお、この期間は協会の行事も一息ついた時期で事務局には多大なご配慮ありがとうございます。

三度の飯よりも刈払いが大好きという協会員有志十数名に声をかけ7月1日から刈払い作業に取り掛かりました。初日は有志4名で四季の森駐車場下のケヤキ林全刈りから取り掛かりました。あいにく朝からの雨で雨具着装での作業となり風には全身すぶぬれ状態で泣く泣く作業を切り上げました。2日目は天候も回復し、参加者も8名と増え桜植樹地・

職場みどりの日記念植樹地の全刈りをほぼ終えました。3日目は6名でいつきの道を終え梅苑の全刈りに取り掛かりました。時節柄ヤマユリの開花期でヤマユリやこれから開花するアザミなどを残しながら丁寧に刈

り払う姿はさすが森をこよなく愛するボランティアの鏡でした。週明けの4日目は3名と少ない人員でしたが梅苑の続きと水辺の森の水道沿いのヨシ刈りを行い、5日目は暑さと湿度で具合の悪くなる人がたものの8名で梅苑を仕上げました。6日目は7名でバットの森全刈り終了と隣のMELON植樹地全刈りの半分以上を終えました。7日目は10名と最も多い参加でMELON植樹地残りとはやぶさの道・ははその道・はづきの道に取り掛かりました。なお、MELON植樹地ではチバチ(クロスヌメバチ)に顔など数箇所刺されるハプニングがありました。

8日目は9名で前日の続きを仕上げました。翌週の9日目は7名で水辺の森上のうづきの道とみちのく文化の道、10日目は5名でやよい文化の道とうぐいすの道と順調に仕上げました。11日目は終日雨模様でしたが女性1名を含む9名であきはぎの道・山桜の森・遊歩道で最も長いながつきの道をほぼ刈り上げました。最終日の12日目は6名でながつきの道残りともんさくの道・ほととぎすの道を仕上げました。

延日数12日・延人員82名を要しましたが四季の森は散策し易いきれいな森に生まれ変わりました。

また、今回の内製化は経費削減とスキルアップにつながり、これから定例化できたらと考えます。

7月24日(金)
第40回宮城県
みどりの少年団大会



<開会式の様子>

少年団大会が7月24日(金)開催され、蒸し暑い中県内から20の元気な緑の少年団の諸君と関係者約300名が野蒜海岸に集まりました。10時からの第40回宮城県みどりの開会式典の後、東日本大震災の後新たに作られた防潮堤の植樹地に移動して松食い虫による松枯れの被害を受けにくい「抵抗性クロマツ」の苗を植樹しました。植樹は移植べらでバーク堆肥と土をよく混ぜて穴を掘り、「コンテナから根が約20センチに育った苗を引き抜き穴に入れて土を寄せ周囲を足で踏みしめて完了です。40分くらいですべて用意した苗を植え終わりました。「コンテナ苗は活着率が9割を超えるもの」です。この後の生育が楽しみです。

(11期 鈴木 武)



<学習発表>

会場を小野地区体育館に移し、抵抗性クロマツの種まきと式典、交流会が行われました。東部地方振興事務所林業振興部の三島直温班長より「須崎の松林の復興について」の講演、利府町みどりの少年団12名による活動発表、鳴瀬鼓心太鼓の演奏などがありました。

利府町みどりの少年団は、「丸森町での植樹活動およびタケの利用に関する学習活動」七ヶ浜における抵抗性マツについての学習活動」について発表しました。発表後、6年生の眞壁はるか団長、加藤竹瑠副団長、太田優羽副団長の3名が取材に応じてくれました。丸森町におけるタケやタケノコの利用、そして七ヶ浜での学習活動によって知ったこと、日本に分布するマツの種類ごよむ特徴の違いや、マツが津波に対抗する働きについての学習が印象深かったこと、そして最上級生になり後輩にも少年団の活動で学んだ「自然の大切さ」「自然がなければ人は生きていけないということ」を伝えていきたい、「そのためにも後輩たちには植樹活動を頑張って続けてほしい」と熱く語ってくれました。利府町みどりの少年団は10月に岐阜県で行われる平成27年度みどりの少年団活動発表全国大会の

発表団体5団体の中の1つとして選定され、参加を予定しています。

(8期 石川 似子)



<交流会・レクリエーション>

交流会には協会員 創意工夫のネイチャークラフトブースが23も並びました。飾り物、楽器、飛び道具、遊具とアイデアあふれる作品群に興味津々。じゃんけん大会を勝ち抜いた順に、目当てのブースに駆け込み工作に取り組んでいました。

より多くの子ども達を引き付けたいという会員の闘志が年々高まり、どのブースも活気にあふれていました。難問だらけの恒例のクイズラリーも大盛況。正答数に応じて協会員手作りの景品が渡されました。

(2期 進藤 恵美)

※来年の大会も沿岸にマツの植樹が予定されています。



8月1日は
イベント目白押し!

8月1日は「宮城県E N E O Sの森」親子イベントとイオン中山チアーズクラブの初めての活動、「ぐりりの森」のワークショップと3つの活動が重なりました。連日の猛暑にも負けない元気な参加者をリードする協会

員はさすがです。それぞれの担当チームのもと、様々な役割を果たしました。福島から来てたまたまワークショップに参加できたという親子連れは、自然観察や虫取り、じゃがいもの収穫までできて、夏休みのいい体験になったと大喜びでした。
(2期 進藤 惠美)



猛暑のなかの
ニッセイイベント

7月30日と8月4日に「ニッセイ緑の財団ふれあい森林教室」を開催しました。30日は石巻の親子を中心に66人、4日は福島からの親子を中心に55人の参加者がありました。連日、猛暑が続いていたので熱中症対策に万全

を期しました。冷水はもとより日陰確保のためテント設置、さらにクーラーをかけた救護車を配置しました。気分が悪くなった親子数人が休憩に利用しましたが、大事に至らず元気になりました。午前は「ESD学びの森」でベンチ、遊歩道、甲虫養育溝作り、樹木名札つけなど汗だくになりながらの森づくりに挑戦しました。午後は青少年の森に場所を移し、まず親子でマイ箸作り。作った箸で流しソーメン会場へ。70メートル余の竹の樋を流れてくるソーメンのほかにお菓子などを箸で取るのに悪戦苦闘。にぎやかな風食会でした。

食後は虫捕りや水鉄砲、風船釣り、ドジョウつかみなどの水遊び。スイカ割りでは当たるまで何度も挑戦する子もいました。緑陰では竹とんぼ、ぶんぶんこ



マ、ワッペンなど十種類以上のネイチャークラフトを体験。二つ、三つと終了時間ぎりぎりまで熱心に作っていました。暑いなかでのイベントでしたが、別れを惜しみながら元気に帰途につきました。
(10期 草野 洋一)

こもれびの森の
川遊び



7月のウッドランドクラブのテーマは、「自然観察と川遊び」です。とりわけ大人気なのは草木川に放流した「イワナ」のつかみ取りです。子ども達だけでなく、大人も暑さを忘れて熱中しました。捕まえた「イワナ」は、2時間程かけてじっくりと焼き、美味しくいただきました。

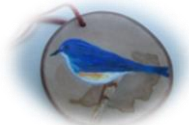
「イワナ」を自分でさばき、焼いて食べることに、子ども達が生き物のありがたさと、命の大切さを学ぶことができるようなイベントとなれば幸いです。

(こもれびの森森林科学館職員

15期 千葉 敬一)

□紙上講座Ⅱ

野鳥とふれあい野鳥に親しむ



14期 永田 傳喜

7月9日我が家の巣箱からシジュウカラが巣立ちました。时期的に遅いかなと思いつながら4月末に取り付けたところ、5月末に巣材を運び込む親鳥、ヒナの声に気が付いたのは6月28日、孵化して2週間程での巣立ちでした。巣材を調べるとさすが住宅地の営巣と実感。またエサ台、水場を設置するといろいろな野鳥が来てくれます。シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、エサの少ない真冬にはシメ、シロハラがやってきたこともあり感激。水場は1年中設置、真冬でも凍結した水を割ってやると早速水浴びします。やんちゃ坊主の水遊びに似てカワイイの一言。

春にはアケビの生け垣を縛っているビニールひもをカワラヒワがやってきて巣材として何度も運んでいきました。恋人ができたのです。

◎身近で生きやすい

マイフィールドを持ちましょう

私の住む泉区加茂は標高約90mの丘陵地、団地の縁に雑木林が点在し沼あり公園あり、その外周には神社、水田、堤もあります。自宅から

片道徒歩30分圏がマイフィールド。20数年間で76種類の野鳥が観察できました。20年前は普通にいた野鳥も近年見られなくなったり、またその逆も気が付きますし、季節の移ろいも楽しめます。



自宅巣箱のシジュウカラ・旅立ちの朝

◎「いつ・どこシート」の作成

いつ(季節)を縦軸・どこ(環境)を横軸に観察した年月日、鳴き声、大きさ、色、尾羽の長さ等特長を記入しておけば、後で鳥名を調べたり記録するときに便利です。

種別	When	Where	Who	What
鳥類				
哺乳類				
爬虫類				
両生類				
魚類				
昆虫類				
植物				
その他				

いつ・どこシートの作成例

◎「マイ図鑑」の作成

これは昨年、泉松陵小学校のけやきやま活動で小鳥グループの子ども達が図鑑を作りたいということで作ったシートです。観察時の状況、特長、どんなものを食べているか等を記入し色鉛筆で野鳥を描きます。私も苦手な絵を書くことよって「へ〜そだったのか〜〇〇」とあらためて気づくことがあります。

種別	When	Where	Who	What
鳥類				
哺乳類				
爬虫類				
両生類				
魚類				
昆虫類				
植物				
その他				

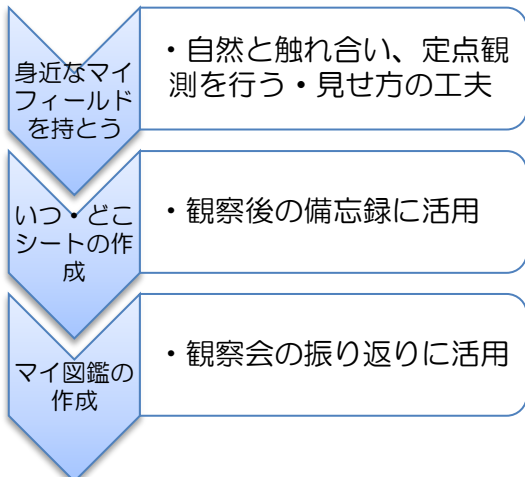
マイ図鑑の作成例

◎生態を五感で感じてもらう工夫

私たちが野鳥観察会を行う対象は子どもと付き添いの大人(初心者)が多く、歩きながら野鳥の種類数を

競うやり方ではなく、エサ台・水場を利用したり、皆が知っている野鳥をじっくり見せたりさえずりを聞かせたりすることに重点をおきます。ホーホケキョと鳴くのはみかやか、どちらも鳴く? また高音で気持ち良くホーホケキョ、低音で短くホーホケキョ、ケキョケキョケキョ、チャッ チャッ、この4種類の鳴き声の目的は? またスズメのみ♀はわかるかな? など答えやすい質問も用意しましょう。

最後に一つ、みなさんの自宅周辺で今年最後にウグイスの囀りを聞いた日を記録しておいて今度教えてくださいます。お願いします。



安全のページ

「安全研修会の報告」

14期 青野 悟

6～7月に森林学習館で安全研修会が3回開催されましたので、研修内容について報告します。参加できなかった皆様にも情報共有し、安全意識の高揚のための一助になれば幸いです。

① 危険生物と対処方法及び熱中症対策について（6月21日、参加者15名）

植物、ヘビ、ハチ、ケムシ、マダニ等の危険生物の特性と対処法と熱中症対策について講義を行いました。参加者からは、ウルシ樹液の付着した手袋、靴や手袋に入り込むムカデ、チャドクガ、マダニの被害について、経験談などの話題提供と注意点の紹介がされ、「危険生物や熱中症などに対する知識や経験などから得た知識が、危険予知に繋がるので大変参考になった」などの意見が出されました。

② 刈払機作業の安全（6月27日、参加者16名）

研修会に先立ち、石井委員長から最近発生した刈払機による作業中の受傷事故報告を行うとともに、災害発生の防止のため周囲の安全を確認することを徹底しました。その後、刈払機による安全な作業方法について講義を行い、参加者から「準備が

でき次第勝手に作業にとりかかるのは止めよう」「初心者に対しては、防具装備や機械の準備作業をサポートしよう」など多くの活発な意見が出されました。刈払機での作業は、危険を伴うので、自分自身の注意と周囲への気配り・協調が大切であることが再確認され、参加者全員で安全対策への意識を高めました。最後に委員長から、安全指導として「安全防具を確実装備すること」「エンジン試運転は歯を装着する前に行うこと」「複数で作業を行う場合は、事前に作業範囲、移動方法等必ず相互確認すること」の「3つをお願い」で締めくくりました。



刈払機鉋刈刃の目立て実習

③ 心肺蘇生とAED使用方法（7月11日、参加者16名）

利府消防署から3名の講師を招き、人形を使用して心肺蘇生方法とAEDの使用方法的研修を行いました。最初に、周囲の安全確認と観察と協力者を求め119番通報及びAED

の要請をする。その後、心肺蘇生のための胸骨圧迫と人工呼吸を繰り返し訓練を、AED到着後は、AEDのスイッチボタンを押してから、音声ガイドに従って処置する訓練をそれぞれ全員で実施しました。参加者からは、「実習で体験することができたことや疑問に思っていたことが解消できて貴重な知識を得た」など、有意義な研修となりました。

安全委員会では、皆さんが楽しく無事故でボランティア活動に参加できるように、安全に関する研修会を今後も企画しますので、参加をお願いします。

なお、熱中症とハチ対策は、当協会HP会員コーナーでも紹介されておりますので、ご覧ください。



川島隆太教授講演会報告

「ルルブルで健やかに!」

14期 原田 良一

6月7日、みやぎっ子ルルブル推進会議（事務局＝県教育庁教育室）顧問の川島隆太教授の講演会が県庁で開催されましたので、その概要を報告いたします。

テーマは、「基本的な生活習慣と子どもの心身の発達について」で、最初に、睡眠と脳の発達について触れ、特にスマホ利用の子ども達の発達に及ぼす悪影響について、約半数の親

がスマホ利用の指導をしていないこと、長時間のテレビ等では注意能力、言語能力を低下させ大脳皮質の発達が悪くなることなどが報告されました。

次に、幸福度と朝食の関係に触れ、幸福度国際比較では、デンマークがトップで7～8点、日本は先進国中最も低く6点台となっており、この差異は食事が関係しており、欧米のパンは全粒粉であること、おかずが多いことによるとのことでした。また、食を中心とした基本的習慣が内発的学習意欲による学業向上の鍵であるとのことでした。

最後に、社会総がかりによる子育てとしては、保護者自身の朝食習慣の重要性について触れ、結びとして、「早寝早起き朝ごはんの重要性」を指摘しておりました。

次いで、会場からの質疑応答では、子どもにとって昼寝の必要の有無について他の質問がありました。その中で「森づくりと子ども達の発達との関係について」の質問に対しては、「直接的なデータは持ち合わせていないが、集団での外遊びは脳を活性化するらしいとの報告がある。」とのことでした。現実の環境に直接関わることの重要性を痛感した報告会でした。

※ルルブルの意味は、「しっっかり寝る、きちんと食べ、よく遊ぶ、で、健やかに伸びる」だそうです。
詳細資料は協会事務局にあります。

「環境教育防災林」の

社会的デビュー

10期 高垣 至

復興事業部は社会に特色ある足跡を残し、海岸林再生事業に軸足を移して新たなスタートを切りました。途中まで携わった者の一人として事業部の後半と締めくりに奔走された方々に敬意を表します。震災復興事業のテーマの一つに、「環境教育防災林」の整備がありました。今後の発生が予想されている東海・東南海沖地震の対象地域には是非この概念を理解し、対策に取り入れてもらいたいものです。「環境教育防災林」とは、事業のスタートに当たって構想を練っている中で、Tさんの発案から採用された、言わばわが協

会が生み出した「造語」です。今後、全国的な規模で防災に生かされるには、メディアを通じた「社会的デビュー」が不可欠です。

東北大学大学院農学研究科では東北の農業復興を牽引できる人を育て、被災地の支援と防災に直結する道を探り、日本農業が目指すべき明日を描く。この理念のもとに昨年(2014年)3月、「東北大学復興農学センター(通称TASCR)」を立ち上げ、学生のみならず一般社会人にも門戸を開いて、人材育成のために復興農学(CAR)及びT農学(CART)の2コースを開講し、この4月からは2期生の養成に取り組みました。

さて今年3月、国連防災会議が仙台を舞台に開催されたことは記憶に新しいところです。この会議に付随して多くのセミナーやシンポジウムが繰り広げられました。その一つと

して、前述のTASCR主催で3月26日、東北大学川内北キャンパスにおいて公式パブリック・フォーラム内セミナー「Model Villageをつくらう」新しい農業と安心・安全で豊かな農村の姿を目指して〜が開催されました。学生4グループがそれぞれ

1 農業がかっこいい
2 How to produce biomass energy in your area

3 Sustainable energy for all
- Sustainable energy for all -
生かした農村の提案

4 地域の安全と環境を守る農業、その活性化について考える

のテーマで発表。その後、各発表に対して社会人も加わってディスカッションが行われました。私はその中の「3 森林の防災機能」のグループに加わり、**機能**の一つとし

て「環境教育防災林」を提案しました。最終的にこの言葉と概念が採用されてTASCRのホームページ上に掲載されました。詳しくは「TASCR」検索→イベント→7/16 付けセミナーの開催記録→ダウンロード→25ページ をご覧ください。これまで協会発行の冊子やホームページでしか人の目に触れることはありませんでしたが、さらに学術報告としてWeb上に載ることによって、まさに「社会的デビュー」を果たしたわけです。

日頃は子ども達の環境教育の場として活用し、いざ災害発生時には住民も含めた避難場所として役立つ。この「環境教育防災林」の言葉と概念が、広く社会に認知されて防災の役にたてれば、わが協会にとって望外の喜びではないでしょうか。



女性会員限定！！刈払い研修

2期 進藤恵美

男性会員の陰でなにかと控えめにありがちな女性会員。たまには本領発揮といきたいもの。5月の総会で、女性会員や高齢の会員向けの企画が欲しいという要望がありました。技術の向上をめざした研修や、期を超えたつながりを求めたハイキングなどの女子会が今まで何度かありました。

7月12日に女性限定刈払い研修がどんぐりの森で行われました。15年前に子ども達の遊び場になってほしいという願いを込めて、松陵小学校の裏手にドングリのなる木約1,000本を2・3期生と共に植樹した地です。森は育ったものの学校は廃校となっていて時代の流れを感じました。ともあれ、ベテラン会員の指導の下、参加8名の女性会員は最初はおっかなびっくりでも、慣れるにつれバリバリどんどん刈り進みました。ただ、私は残したい植物の前でとめられず丸刈りに…。そして森は広がった…。刈っても刈っても終わりが見えず、ハトハト。でも気分は爽快！！でした。



リレー式会員の広場
 14期 水原 洋一

次の言葉に読み仮名を付けて下さい。①辛夷、②接骨木、③案山子、④不来方 【認定試験、思い出したら?】 (正解は、①コブシ、②ニフトコ、③かかし、④こずかた、でした。) こずかたは、ふるさと盛岡の古い呼び名です。昔、鬼が人里を荒し回っており、困った里人が三ツ石の神に願を掛けたところ、鬼は捕えられ、二度とこの地に来ない証として岩に手形を残しました。岩に残された手形が「岩手」の由来と伝えられ、「二度と来ない」の意味で「不来方」の地名が付けられ、その後、森ケ岡、盛岡となりました。この岩のある三ツ石神社は私の実家に近く、子供の頃にこの岩に登って遊びました。当協会で盛岡出身と言えば、10期の咲山さんですが、咲山さんのご実家も私の家から近く、子供の頃に三ツ石さんのお祭りなどでお会いしていたかもしれません。世の中は狭いものですね。

さて、盛岡には天然記念物の樹木が3つあります、はて何でしょう?
 1つ目は、春の観光名所「石割桜」です。市中心部の裁判所前庭で樹齢約三百五十年のエドヒガンザクラに、今年も多くの方がカメラを構えてい

ました。2つ目は「シダレカツラ」です。盛岡原産と伝えられ、約四百年前に盛岡の郊外で幼木を見つけ、植えたのが始まりとのこと。この木は雄木しかないので、芽接ぎや割接ぎで増やされたそうで、市内数か所で見ることが出来ます。3つ目は「モリオカシダレ」で、市北部の龍谷寺にあり、エドヒガンとオオシマザクラの雑種です。来年の春に、花つこ見におでんせ。

総会の基調講演で宮城のお酒について参考になるお話がありました。寒仕込みの美味しいお酒を訪ねて高校の同期生達と「探酒会」と称して酒蔵探訪を始めてもう23年になります。今年は宮古市で震災から復興した千両男山・菱屋酒造店を訪問し、利き酒も楽しみ、その後雪の北三陸一帯の視察と観光が出来ました。

山国育ちが、海岸林再生事業部に所属しました。ご指導お願いします。



23年目の探酒会

次は14期の佐藤雅弘さんにリレーします。

インフォメーション
 『大洋に一粒の卵を求めて』
 東大研究船 ウナギ一億年の謎に挑む
 塚本 勝巳著 新潮文庫

ウナギの先祖は深海魚というのをご存じでしたか。著者はウナギの生活史の研究に携わった著名なウナギの研究者です。川で成熟したウナギは海に下って産卵し、幼生(レプトセファルス)が黒潮に乗って日本近海へ。そこでシラスウナギになり、河川を遡上した後約10年かけて成熟し、海へ戻るのです。ウナギの産卵場所は長らく不明だったのですが、2009年から2014年にかけての調査で西マリアナ海嶺の海山域であることが著者らの調査で判明しました。ウナギの産卵の条件(時期・海の塩分濃度・月の満ち欠けなど)を考えて産卵域を特定するまでの様子は推理小説の犯人探しの様で面白く一気に読んでしまいました。

近年ウナギ資源の枯渇が話題になっています。今年の丑の日にはウナギ丼ならぬナマズ丼まで登場して話題になりました。枯渇の原因の大部分はシラスウナギと成熟したウナギの乱獲だそうです。ウナギ資源に赤ランプがついている現在、安いウナギを毎日食べるのをあきらめ、1年に何回か「ハシの日のごちそう」として最高のウナギをじっくり楽しむことにしようかと提唱しています。

編集後記

道路からの目隠しに植えたツルバラがゴマダラカミキリの食害で枯れたので、今夏グリーンカーテンにツルインゲンを植えてみました。目隠しにもなりサヤインゲンも大豊作、一石二鳥でした。ゴーヤよりいいかも。来年試してみたいかですか。(鈴木) キイロ、クロ、アシナガと今年はやけにハチが多いといひます。刺される事態も時折あるようです。「キプロスの蜂」という推理小説では、蜂さされによるアナフィラキシーショックが殺人のための手段に使われます。秋に一層凶暴化するハチには是非ご注意ください。(篠澤) 1月の大腸出血5月の肩鎖関節脱臼と、散々な年ではある。が、若干の収穫もあった。1月は市立病院に入院したのだが、「一般病室の空きがないので特別室へ」と言われ、自らが人質の患者の悲しさ、納得せぬまま同意書に署名・差額ベッド代の支払いをしてしまった。退院後、何度も市立病院と交渉、4月22日付けで院長の詫び状を勝ち取った。皆さま!「空き病室がない」場合は無料で特別室が使えます。新装仙台市立病院を御鼻頂に!(若生)



ノコギリって楽しい!

新年度に入り4ヶ月が過ぎ、夏の暑さの味もよつやく越えたように思われる。この頃です。
 今年の夏は、猛暑のせいか家族連れの来園者が少ないように感じます。7月中旬、(浅水)△ふれあいセンターの児童13名、父親7名が竹ポックリ作りにチャレンジしました。ノコギリを使うのが初めての子ども達も、始めはおっかなびっくりでしたが使い方の指導のもと、切れることへの興味のスイッチが入ると、俄然ごんごん切り始め30〜40分すると全員が切り終わり、操作紐を通してマイ竹ポックリの完成です。さっそく芝生広場に移動し、全員でマイ竹ポックリの初乗り体験をして楽しく過ごしていただきました。

県民の森管理事務所
 竹ポックリ作りにチャレンジ

所長 12期 蜂谷 仁



伐倒はオレに まかせろ!

野鳥の森には観察路が7コースあります。利用者の安全を考え観察路を整備することは施設管理面でも重要なことです。特に枯損木の伐倒には骨が折れます。枯れ木本体が観察路に倒れないように判断して伐倒することや伐倒木が他の立木をキズつけないように倒すことは大事なことです。野鳥の森はアカマツが圧倒的に多い混交林です。そして枯れる木もアカマツが多く、それも比較的大木です。アカマツは枝を他のアカマツの枝に絡めたりツル性植物が絡みついてたりで希望する方向には倒れてくれませんが、反省の工夫もするのですが苦戦の連続です。しかし、計算通り予定方向に無事倒れた時は安全を守れた使命感による喜びを感じます。そして、それが生きがいです。

いかりはこす
 私の生きがい

職員 4期 藤原 富雄



フシグロセンノウ
 アサザ

オオウバユリ

夏休みを迎え、科学館では毎日のように子ども達の歓声が聞こえてきます。地域の子供会や公民館の行事などが続いております。
 今年は、科学館に隣接する池をきれいにするため、毎月の作業日に、エンジンポンプ等を使って排水と汚泥の除去をしてみました。よつやく成果があらわれ、子ども達が入って遊べる状態となりました。園内には、滝や湧水の流れる小川、湿性植物園があり、近くには草木川が流れています。子ども達の大好きな水遊びや虫とりが、安全に楽しくできる環境となれば幸いです。これからも会員の皆様のご協力と、ご来館をお待ちしております。

こもれびの森 森林科学館
 科学館で水遊び

職員 15期 千葉 敬一



発行 特定非営利活動法人 宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121 宮城県宮城郡利府町神谷沢菅野沢4-1 青少年の森

TEL&FAX : 022-255-8223

メール : mifi@bz04.plala.or.jp HP : http://mifi.main.jp